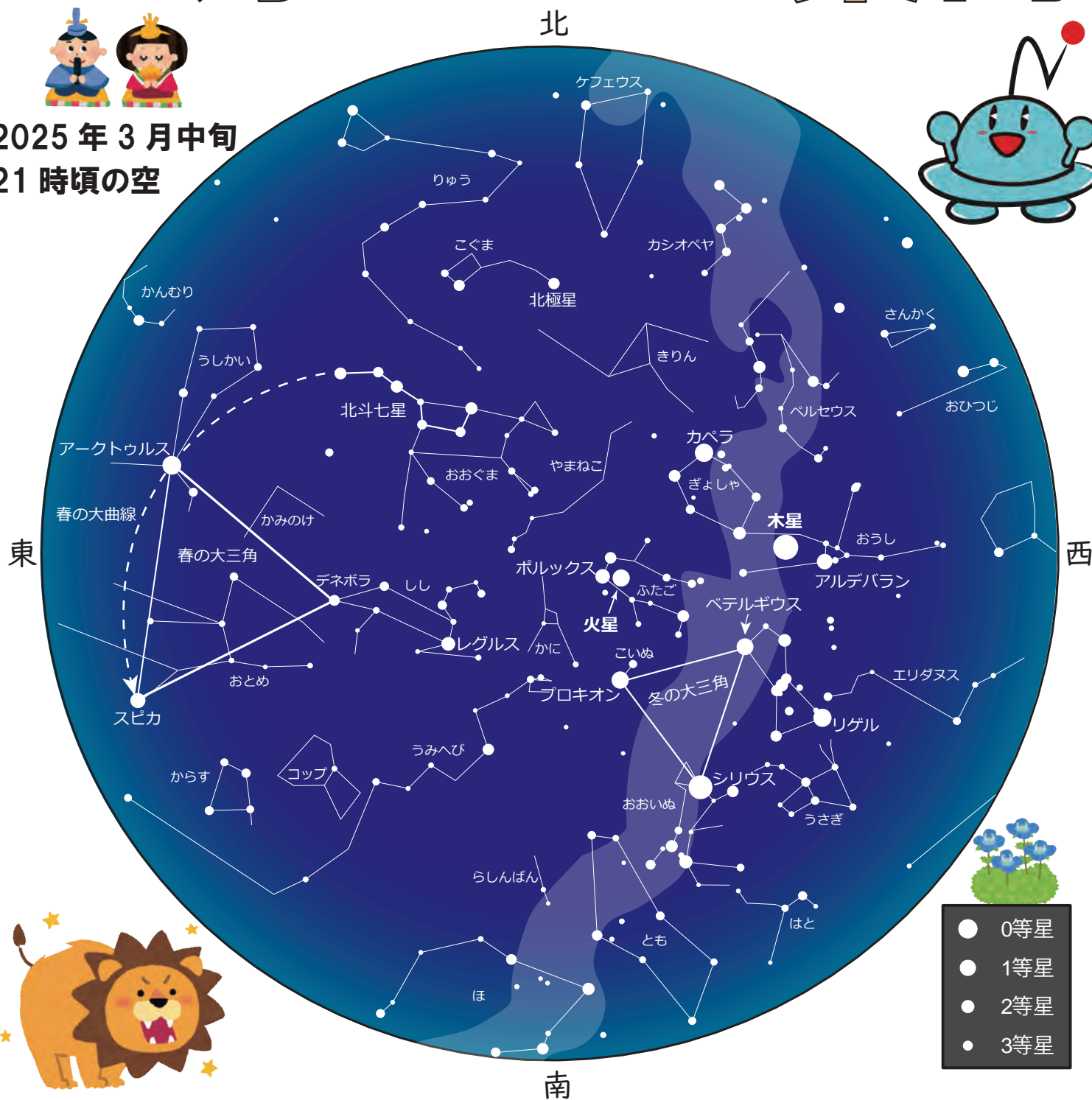


# 3月の星空案内



2025年3月中旬  
21時頃の空



3月のイベントといえばひな祭り。実は夜空にも「ひな祭り星」と呼ばれている星があります。それは3月になると頭の上に昇ってくるふたご座の星、一等星の**ポルクス**（約1.2等）と二等星の**カストル**（約1.6等）です。ですが今年は双子じゃなくて三つ子やで、といわんばかりに**火星**（約0.1等）がふたご座の中で輝きを放っています。さてこの季節になると徐々に冬の星座たちが西に傾き、春の星座が顔を見せ始めてきます。なかでも北の空に昇ってくる**おおぐま座**は見頃です。おおぐま座のしっぽの部分にあたる7つの星の並びは**北斗七星**としてよく知られています。北斗七星は**北極星**や**春の大曲線**といった星やアステリズムを探す目印になります。まだまだ寒い夜が続きますが体調に気をつけてぜひ探してみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<https://www.ananscience.jp/science/>

# 3月の月の満ち欠けと惑星について



上弦  
7日



満月  
14日



下弦  
22日



新月  
29日

## 3月の天体観望会で月が見える日時は？



3/8(土)・・・19時、20時がおすすめ



3/15(土)・・・20時の回がおすすめ

水星：8日に東方最大離角をむかえ、日没後西の低い空で見える。【約-0.3等】

金星：日没後、西の低空で観察できる（宵の明星）。【-4.2等】

火星：日没後、天頂付近で見えはじめる。【約0.1等】

木星：日没後、南西の空で見えるが、後半夜には沈んでしまう。【約-2.2等】

土星：13日に合をむかえるため、観測は難しい。24日に環の消失現象。

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星は8日の明るさ）。



3月は気流も落ち着き、**シリウスB**が観察しやすくなるぞ！

## おすすめの観察対象

### 【水星を探してみよう！】

水星は名前から水に満ちていそうな惑星ですが、水はなく、月に瓜二つな見た目をしており、太陽に一番近い惑星です。昼は最高430℃、夜は-160℃と住むには地獄のような環境になっています。同じ読み方をする太陽系の仲間に彗星がありますが、彗星は長い尾を持って現れることが特徴的で、惑星よりもはるかに小さな天体になります。

そんな水星が今月の8日に東方最大離角をむかえます。地球から水星を見た時に、太陽から一番離れた位置関係になり、とても観測がしやすい時期です。図1で8日の水星の位置を確認してみましょう。ほぼ真西に位置しており、近くにはひときわあかるく輝く金星があつて目印になります。しかし、この日でも19時30分には地平線の下へ沈んでしまい、さらにはこの日を境にまた沈む時刻がじょじょに早くなってきます。見つけるのが大変な水星ですが皆さんぜひ西の空が開けた場所で探してみてくださいね。

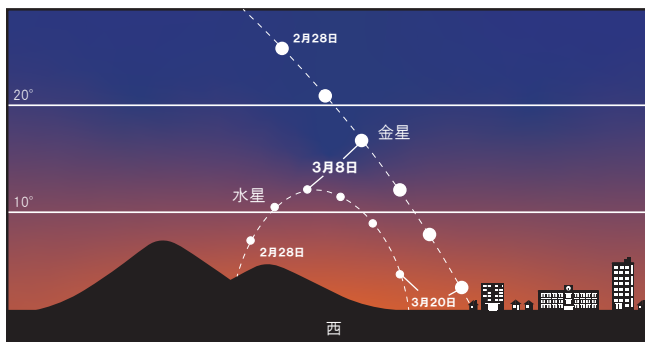


図1 4日おきの水星と金星の動き方  
(18時30分の阿南市の夜空を想定)  
※図はステラナビゲータをもとに作成

### 【かに座のプレセペ星団 (M44)】

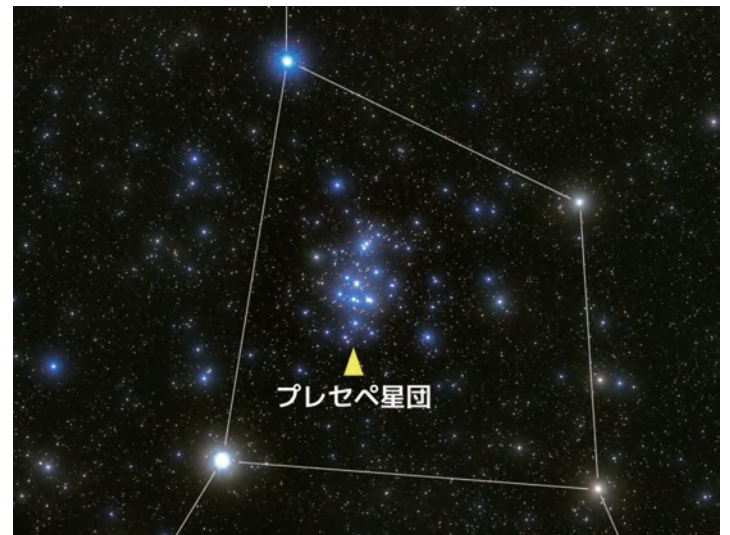


図2：かに座で輝くプレセペ星団 (M44)  
【200mm (F3.5) + EOS kiss X7i, 120s×12, ISO1600, by K. Imamura】

「かに座」は春先に宵の口から見られる星座です。ただ星座を作る星の明るさは約4～5等と暗めなので、なるべく空の暗いところで探すと良いでしょう。ところで、かに座には甲羅を連想させる台形型の星の並びがあり、写真のようにその中央部には「**プレセペ星団 (M44)**」と呼ばれる星の集団があります。英語圏ではこれを蜂が群がる様子に見たと、蜂の巣を意味する「**ビーハイブ**」という愛称で親しまれています。ただこの星団は肉眼で観察するとぼうっと白っぽく見えるため、古代ギリシャや中国では、これを魂の出入り口や人魂（妖気）だと考えていました。なお双眼鏡や望遠鏡で観察すれば数多くの星の集まりだということがわかり、まるで宇宙の宝石箱を見ているようです。